

UNIVERSIADE GWANGJU 2015 REPORT 8

(7/6)

7月6日(月)

6:50 選手村発のバスで忠州ボートコースに向け出発

7:00 忠州ボートコース到着。各クルー乗艇練習開始

昨夜よりランチボックスの予約がいないとのことではどのようになるのだろうと思っていたら、インフォメーションセンター内に各国分が紙袋に仕分けされていました。この日も朝から忠州の方々のホスピタリティに驚かされました。

8:30 忠州ボートコースから選手村に帰村



各国の軽量級選手数+2程度のランチボックスが用意されていました。きめ細かい心遣いに感謝。



この日はレースのないLM2xも調整に余念はない。

13:30 LW2x選手村発のバスで忠州ボートコースに向け出発

13:10 LW2x忠州ボートコース到着

13:45 LW2x選手計量

13:55 LM4-選手村発のバスで忠州ボートコースに向け出発

14:05 LM4-忠州ボートコース到着、そのまま選手計量

15:45 LW2x 決勝

世界規模の大会で3種目でA決勝となった今大会。昨日の日本チームの活躍で明らかに他国のマークは厳しくなっている。そのような状況の中、日本チームのA決勝の先陣はLW2xだった。

スタート地点に浮いていたペットボトルの回収で定刻より2分遅れてのスタート。スタートで飛び出そうとしたところ3本目でまさかのミスオールとなり、スタート100mでは僅差ながら5位のポジション。苦しい前半になるかと思われたが、日本の2人はここから一本一本の加速の差を見せつけ始める。落ち着いて6レーンカナダを抜き去ると、そのまま4レーンのイタリア、2レーンのポーランドを捉え、500mはトップのドイツに0.51秒差の2位で通過。1位から5位までが1.80秒の中にひしめく混戦状態ではあったが、ここから日本が600m地点で1位に浮上する。しかしさすが世界の決勝、簡単には行かせてくれない。1000m地点では1位が日本、2位が0.62秒差でイタリアが続き、3位が1.99秒差でポーランド、以下4位オランダ、5位ドイツ、6位カナダと続いた。

しかし1000mを過ぎるとさらに2人の動きが躍動し1250mでは激しい2位争いをするイタリアとポーランド

ドに1艇身の差をつけ完全にレースの主導権を握った。1500mで2位のイタリアに1.94秒差をつけこのままゴールまで一気にいくかと思われたところで、3位を走っていたポーランドが猛烈なスパートを見せ、レースが一気にヒートアップした。ポーランドはそのままイタリアを捉え2位に浮上、さらに日本との差を詰め始める。またポーランドに引っ張られるようにして3位イタリア、4位オランダまでが激しいデッドヒートを繰り広げ、上位4クルーがゴールになだれ込もうとする。しかし、一昨年のユニバーシアードLW2x5位、U23世界選手権BLW1x3位の経験を活かしB大石が的確にスパートを入れ後続を振り切りトップでゴール！4位までが1.63秒差という白熱した戦いを制し、大学カテゴリーではあるが、日本女子ボート界初の世界大会での金メダルを獲得するという快挙を成し遂げた。



会場の大型ビジョンに映し出されるレースの様子。700m地点でトップ日本が映し出された。



ゴール前、必死に追い上げてくる後続を振り切る日本。手前から4位オランダ、3位イタリア、1位日本、2レーンのプレートが見えているのが2位ポーランド。この数秒後に歓喜の瞬間が訪れた。

16:00 LM4- 決勝

LW2xの興奮冷めやらぬ中、LM4-のレースがスタートした。スタートから各国何とか前に出ようと激しく攻めてくる。日本は1位争い横一線の中にはいるものの、中々主導権を握るまでにはいかない苦しい展開。

500mを僅かの差で1位で通過するも、3位オランダまでは0.29秒差。6位中国までが1.94秒差にひしめく混戦の前半となった。

第2クォーターに入りドイツと日本が激しくトップ争いをしながらも、混戦状態が続いた。1000mでは僅かにドイツにリードを許し、1位ドイツ、0.12秒差で2位日本、3位オランダ、4位イタリアの順で通過する。しびれるような展開が続いたが、日本のリズムは崩れることはなく、逆に躍動感がさらに満ちてきた。第3クォーターで再びトップに立つと、1500mでは2位ドイツとは0.67秒差、3位に浮上したイタリアとは3.03秒差をつけた。

大歓声の中、ラストクォーターに入ると一気にスパートし勝負を決めたのは日本だった。ストロークの佐藤選手(日本大学)の動きが一気にトップギアに入ると、滑るように艇が加速し一気に後続を引き離れた。ドイツ、イタリア、オランダは前半からかなり仕掛けていたため余力はなく、そのまま日本が1位でゴール。何と世界大会において日本クルーが2レース連続で優勝を決めるという快挙を成し遂げた。

2位には日本と激しいトップ争いを繰り広げたドイツが2.10秒差で入り、オランダとの3位争いを制したイタリアが3位となった。



第4クォーターで一気にスパートし後続を突き放す日本。左からB荒木選手、2林選手、3志賀選手、S佐藤選手(いずれも日本大学)

ゴールの瞬間、喜びを爆発させるLM4-クルー。



Victory Ceremonies

LW2

- B 大石綾美選手(株式会社中部プラントサービス)
S 富田千愛選手(明治大学)



FISU賛歌が流れる中、世界のセンターポールに日の丸があがった。

※ユニバーシアード競技大会の国旗掲揚では、国家は演奏されずFISU(国際大学スポーツ連盟)賛歌が流れます。



LM4-

- B 荒木祥太選手(日本大学)
2 林亜門選手(日本大学)
3 志賀巧選手(日本大学)



選手からひとこと

LW2x

B 大石綾美選手(株式会社中部プラントサービス)

一昨年U23世界選手権のBLW1xで銅メダルを獲得した経験を、(自分一人ではなくパートナーがいる)ダブルスカルに活かし勝つことができ嬉しいです。スタートで出遅れた時もパートナーの富田選手の存在があったからこそ頑張れました。ここまで苦しい時期もありましたが、色々な方々に支えていただけたおかげで金メダルが取れました。ありがとうございました。

S 富田千愛選手(明治大学)

クルーの組みはじめは大石選手の足を引っ張らないことばかり考えていましたが、練習を重ねるにつれ2人で成長していくことが楽しかったです。大石選手と二人で「絶対金メダルを取ろう」と組んだ当初に誓ったことがかなってとても嬉しいです。

LM4-

B 荒木祥太選手(日本大学)

最上級生としてクルーをまとめる立場ではありましたが、常に積極的な後輩たちと勝利をつかめたことが何より嬉しいです。

2 林亜門選手(日本大学)

半年間つらい練習に耐えた結果が出たことが良かったです。この後のU23世界選手権につなげていきたいと思います。

3 志賀巧選手(日本大学)

嬉しいです。今回を通過点としてU23世界選手権につなげられたらと思っています。

S 佐藤翔選手(日本大学)

世界大会初メダルを金メダルで飾れて何よりです。



明日7月7日(月)はいよいよ最終日、LM2xの決勝レースが行われます。最後までチーム一丸となって勝利を目指しますので応援よろしくお願い申し上げます。

7月7日(火)

15:45 LM2x 決勝